

ノーヴァヤ・リューストラへのインタビュー

●TORICOはどのような作品ですか？

これはそもそも2003年当時、京都在住だったアーティスト平田さちとのコラボレーションとして開始したプロジェクトです。平田さんはレンガなどを粉にして、それを床に撒いて作品を作っていました。ノーヴァヤ（名前が長いので、この短縮形で呼ばれることが多い）は、平田さんからいろいろな指示を仰いだうえで、ノーヴァヤの素材で平田さんの作品を展開してきました。ノーヴァヤの素材とは、竹炭とトルマリンの粉です。竹炭とトルマリンについては、さまざまな効能が謳われているが、それは果たして体感できるのか？

この秋、インドでTORICOを再開しました。今年の3月に下見のためにインドを訪れて展覧会の案を練っている時にランゴリ（砂で描く床絵）のことを知り、紆余曲折を経た結果、現地のランゴリ・アーティストとのコラボレーションにより、ランゴリの素材でTORICOをムンバイの路上で作成しました。インドの伝統芸能であるランゴリとの出会いによって、TORICOは今後もさまざまなかたちで展開していくような予感がします。

●一人でなく二人で制作することの意義はなんですか？

ノーヴァヤ・リューストラは、アーティストである中野良寿と、音楽学者の安原雅之によるユニットです。分野の異なる二人で活動することによって、一人ではできない展開が可能になっていると思います。

「お二人の役割分担はどうなっているのですか？」と良く聞かれます。はっきりしているのは、高い所での作業は中野が、音楽関係のとりまとめは安原がするというくらいです。あとは、常にアイデアを出し合いながら作品の構想をまとめていきます。実際の作業は大変なことが多いですが、構想を練るプロセスはかなり楽しいです。

●ノーヴァヤ・リューストラにとってアートはどのようなものですか？

ノーヴァヤ・リューストラとは、ロシア語で「新しいシャンデリア」を意味します。シャンデリアは、単に部屋を明るく照らすだけでなく、高貴な西洋文明の象徴とも言えるでしょう。「新しいシャンデリア」にも、照射のイメージはあるとしても、それは必ずしも光であるとは考えていません。そもそも、この名前の直接の由来は、1920年代にソヴィエトの科学者アレクサンドル・チジェフスキーによって発明されたマイナスイオン発生器にあります。それは、「チジェフスキーのシャンデリア」という名称で、旧ソ連で普及していたのです。この、摩訶不思議な形状をしたマイナスイオン発生器は、天井からぶら下がり、光ではなく、マイナスイオンを放射していたのです。

ノーヴァヤ・リューストラは、コラボレーションでいくつかの「新しいシャンデリア」を創ってきました。そのひとつは、カフェ・リューストラのインスタレーションで用いる古着の天蓋です。これは、これまで日本各地、韓国、カナダ、インドを経てきましたが、毎回現地でワークショップを行って増殖してきました。また、ロシアの作曲家に委嘱し、「新しいシャンデリア」というピアノ曲も生まれ、山口での展覧会ではパティシエ

を招き、「新しいシャンデリア」というデザートを作ってもらい、オープニングで振る舞いました。人と人との繋がりのなかで生まれて来るのが、ノーヴァヤ・リューストラのアートと言えるかも知れません。



ムンバイの路上で制作したTORICO。2007年11月21日